明るく、はなやいだ本部での交流だった。

東ドイツから突然の来訪

十月十八日の午後、三池労組本部は何がなしはなやかな空気に包まれていた。ほかでもなく、東ドイツ（ドイツ民主共和国）から、突然三人の来訪があったからだった。

国際連帯の花が開く

代表団が寄せた期待と感激

まず来訪した人は、次の人々である。

団長　ヘルベルト・フェヒトナーさん（人民議会・国際議員連盟副会長。ドイツ自由民主党本部役員）

もともとこんどの来訪は、ドイツ民主共和国生誕二十五周年を祝い、かたがた社会主義建設活動を学ぶために、〝日独友好協会〟が招いたもの。

代表団としては「戦後の日本の労働運動のなかで、もっとも戦闘的・前衛的な闘いをつづけている三池労組と交流したい」、ということからこの来訪になったものだという。

当日は、古賀組合長は不在だったが、渋田書記長ほかの組合役員たちに、島会長ほか三池主婦会役員が交流に参加でき、まず本部での交流（午後一時過ぎから）、三川鉱構内見学、四山社宅では実際に組合員家庭を訪問、楽しい交流の花が咲いた。

代表あいさつ

本部での交流では渋田書記長と島主婦会会長から、三池闘争以来の連帯にもとづく暖かい支援への感謝とともに、三池の闘いの現状を報告すると、団長のヘルベルトさんは「三池への支援は、社会主義の国として当然なことで、感謝されることではありません。いやそれどころか支援することによって、私たちは勇気づけられてきましたから、感謝していただく必要はありません」として、おおよそ次のように述べた。

×

身近かにこうしてふれ合うことができ、感激に耐えません。印象深い一日になることを確信しています。

私たちは相互が、兄弟としての共同の闘いを通じて、一つに固く結ばれていることを知っています。

三池の実態について、歴史についてくわしく聞きました。資本主義とはどんなものか知っていたつもりだったが、三池の実際を聞いて、資本の搾取に煮えたぎる思いがしています。

闘いのなかには成果もありましょうし、後退もあるでしょう。だが後退は労働者を返って、階級的に目覚めさせることを確信しています。

三池の闘いの勝利は必至です。私たちの国も二十五周年の記念を迎えましたが、三池と同様に国際的にも重要な意義があります。私たちは大資本・大地主を排絶し、労働者が全人民と手をつなぎ政権を手にし、社会主義を国民の生活をよくするために発展させてきました。

何よりもソビエト連邦で示されているように、社会主義のみが世のなかに幸福をもたらすものです。

皆さんの国でも、必ず独占資本にうち勝ち、平和でしあわせな国が誕生することを固く信じます。ご健康を心から祈ります。

×

なお三人の代表団は、「帰ったら、国民に必ず三池の闘いの実情を伝える」とくり返し約束しながら、名残りを惜しみつつ大牟田を離れていった。

熊本市長選に中村候補推薦

県総評

任期満了にともなう熊本市長選挙は、この二十日告示、十二月一日投票で行われるが、熊本県総評は中村誉現県会議員（社会党県本部副委員長）を推して、革新市政の実現を期している。

近藤県総評議長は、「各組合の皆さんの物心両面の支援を」、と強く訴えている。

一一・九を迎えて 改めて決意を

主張

今、十一回目の一一・九を迎えようとしています。

あの爆発以来、熊本病院で闘病生活を続けて来た植物人間――宮島重信さんも今は亡いし、浦浜さん、斉藤さんとCO患者が次つぎに死亡し、また多数の患者が入院し、治療するという事態の続発から、新たな恐怖にさらされています。

三十八年の十一月九日の三川鉱炭じん大爆発は、石炭斜陽論をふりかざしながら攻撃をかけ、次から次へ押しすすめてきた石炭政策のなかで発生した、合理化の具体的な姿です。

石炭斜陽に足場を置く政策のなかで生きてゆくためには生産性を高め、コストをひき下げ、そして利潤を高めることだと、合理化に次ぐ合理化で生産を優先させ、保安を無視し、間接夫を削減していったのです。

三池闘争前は、大斜坑のベルト当番として一台に一人の人員が配置され、ほかに清掃する人を配置し、ベルト周辺には常に炭じんがたい積することがないように掃除し、岩粉がまかれていました。それが闘争後は十二台に一人の当番となり、清掃人員は削られ、岩粉もまかれず、ついにはたい積した多量の炭じんのため、起してならない爆発を起こしてしまいました。

爆発以来十一年、その被害者である遺族やCO患者は苦しみつづけて来たのです。

この苦しみのなかから三井の責任を追及し、完全補償を勝ち取り、入間優先の職場をつくり、政策を確立するため、さらに闘いを強化する以外にないとの決意を固くし、損害賠償を求める裁判を提起しました。

七回にわたった公判のなかで、資本側は厚顔にも、「炭じん爆発の責任はない」との態度を表明しています。しかし原告団の、事実をつきつけてせまる鋭い追及に、すでに闘いの方向は示されています。

今後はいよいよ、裁判のなかで一つひとつの証処をつきつけ、証人を立て、三井の責任を具体的に明らかにしてゆく闘いが、すすめられてゆくのです。

今、石炭産業は、世界的なエネルギー不足、インフレの嵐のなかで、改めて見直されて来ていますし、利潤を第一に考え、使い捨ての消費政策、高度経済成長、日本列島改造計画をすすめて来た資本の政策は、世界の人民の反撃の前に、苦境に立たされています。

これらの情勢を乗り切るためには、ファッショ的な攻撃をさらに強めようとしています。公務員の政治活動に対する非常識な抑圧など、この一つのあらわれです。

しかし、米国の中間選挙に見られるごとく、権力と金力とにまかせて政治をすすめようとすると、必ず大きな反撃となって返ってくるものです。

今日本でも、田中内閣は倒閣の直前に立たされています。これは何も、田中内閣の姿だけに限ったことではありません。それは保守党全体の姿であり、保守党に代表される日本独占資本の姿です。

ときにはゆるやかに、ときには地ずべり的状態ではあっても、労働者側の力は確実に拡大し、強くなってゆきます。遺族が「夫を返せ」、CO患者が「元の体にして返せ」と叫ぶのは、資本が労働者を生産の道具としか考えず、利潤のためには容赦なく切り捨てようとする、そのことに対する労働者の「人命尊重」の叫びです。三池労組がすすめているCO闘争はまさにこの闘いです。

いよいよ十一周年を迎えようとする一一・九。十一年の闘いをさらに乗り越え、激動のなかで、今までになかった有利な条件のなかで闘いがすすんでいます。遺族やCO患者の叫びに、こだまが返されて来る社会。それをめざす闘いを、今こそ始めましょう。

本紙千号記念新春文芸募集

本紙も十一月十六日発行をもって、記念すべき千号を迎えました。これも組合員・家族、それに全国のなかまの連帯の力でこそはじめて成し遂げることができたので、すべての読者とともによろこびを分かち合いたいと思います。

この千号の記念の日を土台に、本紙はさらに豊かな紙面をつくり出し、より広く人びとの心のなかに指導性をつらぬき、資本と闘う武器としてその力を強めていくことをめざし努力をつづけてゆきます。

その意味からも、来たる新年号には、組合員・家族、それに全国の読者の皆さんに奮起していただいて、新春文芸、そのほか本紙への提言や、闘いと生活のなまなましい記録、などを寄せてください。

締切りは十二月二十日まで に、組合本部内「みいけ編集部」までとどくよう、ご配慮いただきたくお願いします。

編集部

▼…本紙千号を記念して〝新春文芸募集〟をしますが、その種目は次の通りです。

短篇小説　三千字以内。題は闘いと生活のなかから、ご自由に選んでください。

詩　一人二編以内。字数も題もご自由にお願いします。

短歌　一人五首以内。題は自由。

俳句・川柳　ともに一人五句以内。題自由。

姿見　千字以内。題は自由。

みいけへの提言　「こうしてもらいたい」「ああしてほしい」という希望をご自由に。

闘い・生活記録　それぞれの職場、各ご家庭で経験なさったことが数限りなくあることと思います。そのような、なまなましい経験を、二千字以内でまとめてください。

写真　新しい闘いの年にむかって、力強く歩き出そうとする労働者の表情をとらえたものを。一人五葉以内。

マンガ　これこそ主題は自由。思う存分に、資本や反動政府への痛烈な一矢をどうぞ。

その他　そのほか、種目を問いません。思いのまま、どしどしご投稿を。

×

募集種目は以上のとおりですが、なお次のことをご留意ください。

資格　三池労組の組合員とその家族。全国の遺族・CO患者守る会会員の皆さん。そのほか常に、本紙をご購読いただいている皆さん。（ただし〝姿見〟は三池の主婦と、全国の皆さんのうちの主婦の方に限ります）

選　応募作品がとくに多いときには、知名の人の手で天・地・人・佳作などを選ばせていただくことがあります。

薄謝　作品をお寄せいただく方すべてに、心ばかりの薄謝を用意いたします。